

新入生の皆さんへ

入学、おめでとうございます。本来でしたら、入学式、入部式で入学をお祝いするところですが、残念ながら、今年度はこのような形になってしまいました。しかし、これはこれとして、自分たちの大事な入学の年として記憶に留めておかれたら、後で振り返って、きっと特別な色を帯びてそれぞれの心に蘇ることと思います。

皆さんは、これから、人文社会科学の学問をそれぞれの分野・領域で学び、またそれぞれ自分の関心と視点から取り上げたテーマを時間の許す限り追求し、論文に纏めていくこととなります。なかなか簡単なことではありませんが、簡単でない分、価値あるものですので、おそらくはいくつも現れてくるであろう壁を乗り越えて、自分の目的を果たされることを願っています。

また、専門的に学ぶこと、また取り組む研究はもちろんのことですが、同時に、議論することを身に付けることも重要です。議論というのは、自分の考えを述べ、相手に理解してもらい、そして相手の考えを聞き、理解し、自分に生かすことです。それはプレゼン力でもあり、コミュニケーション力でもあります。相手の考えが自分の考えと違えば違う程、貴重なものです。専門性を深めていく中で培われるその力は、専門力と並んで、今後大いに生かされることと思います。ぜひ、意識して「議論」して下さい。

人文社会系の学問といえば、よく社会との関係——社会への還元、社会での役割等々——が指摘されます。デジタル化が目まぐるしく進む社会の中で、ますますそれが問われるところですが、そのような社会になればなるほど、皆さんが学び、研究することが重要になってくることが指摘されています。最近、society5.0やdigital-humanities2.0といった用語をよく耳にしたいと思います。これは、デジタル技術が進歩・発達した先にある社会のイメージで、技術的な進歩・発達が進む先において、それが人やその生活とどう融合していくのか、人の生活の豊かさやどう結びついていくのかという問題を提起するもので、AI化が進んで行く近未来社会における人の在り方、生活の在り方、人間関係の在り方を提示するものです。そして、そのようなこれから現出する社会においては、人文社会的な知識、視点、発想、思考、精神、情緒がより重要になるということです。つまり、皆さんが本教育部で学び、身に付ける力は、間違いなく、今後一層重要で、必要なものとなります。誇りをもって勉学に励んでください。

令和2年4月4日
大学院社会文化科学教育部長
隈元貞広